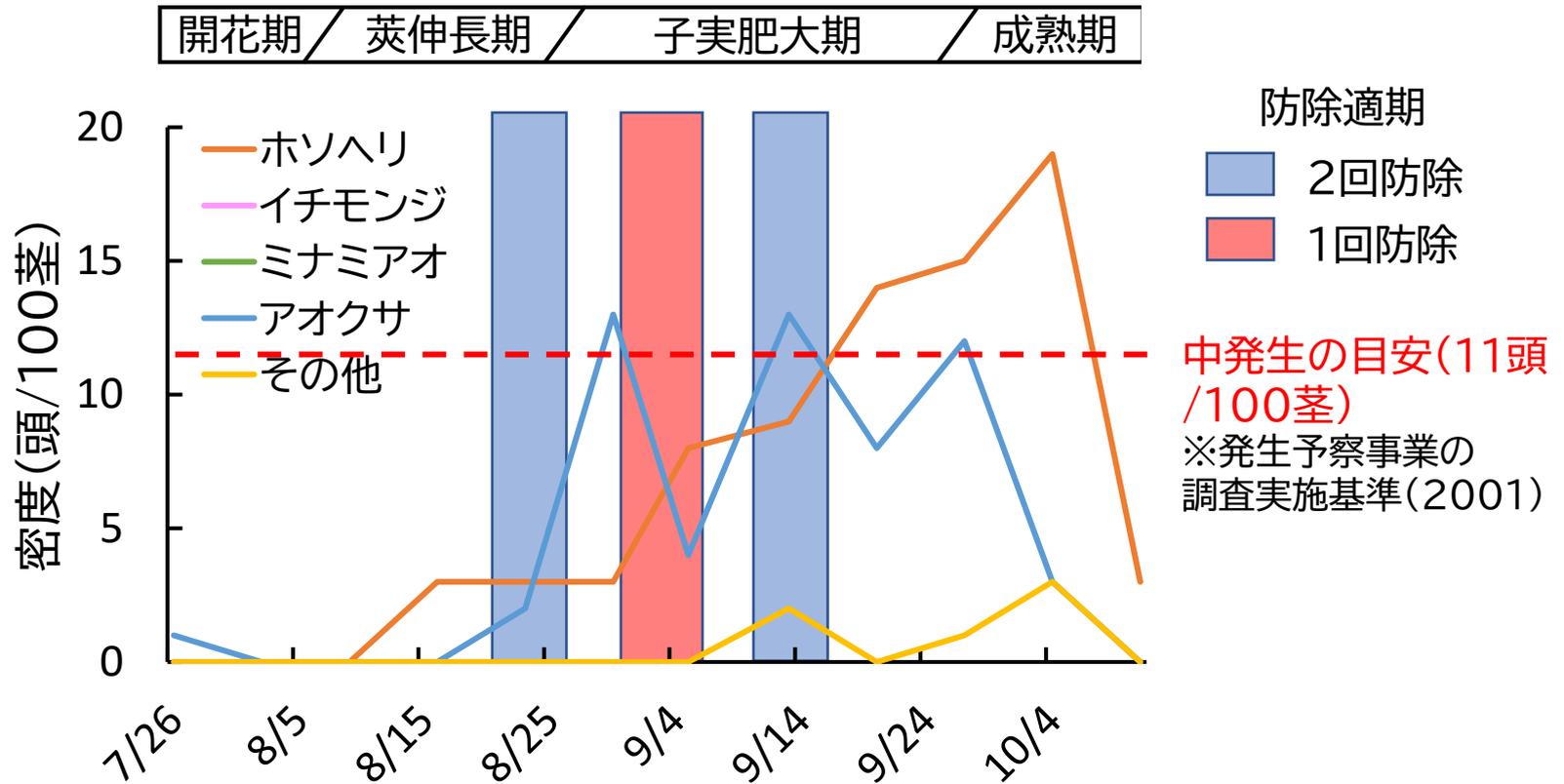


防除対策について

- 薬剤での防除については、圃場での発生状況を見ながらの対策が理想的だが、実際にはダイズの生育ステージに合わせての防除が現実的
- **一部の薬剤**はダイズカメムシ類に対し効果が低い事例が報告されている(Takeuchi and Endo, 2012)
- カメムシによる被害が予想される場合には、**子実肥大初期**(開花30-40日後)に**1回防除**するのが効果的
- 20%を超えるような大きな被害が予想される場合には、**莢伸長後期**(開花20-30日後)と**子実肥大中期**(開花40-50日後)に**2回防除**するのが効果的
- 2回の防除でも密度が高い場合は、追加で3回目の防除を検討する(2回目の10~14日後が目安)

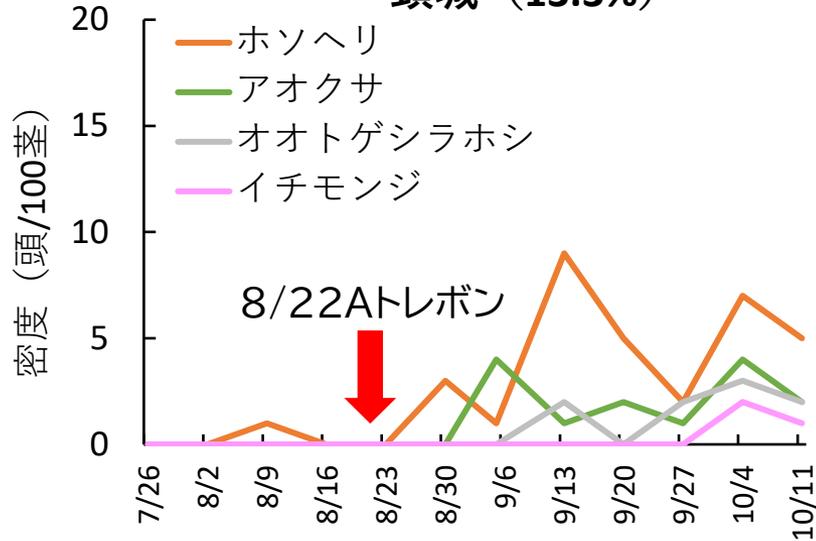
ダイズカメムシ類の発生消長および防除適期(新潟県上越市)

品種「エンレイ」、5/31播種、7/24開花(2017)

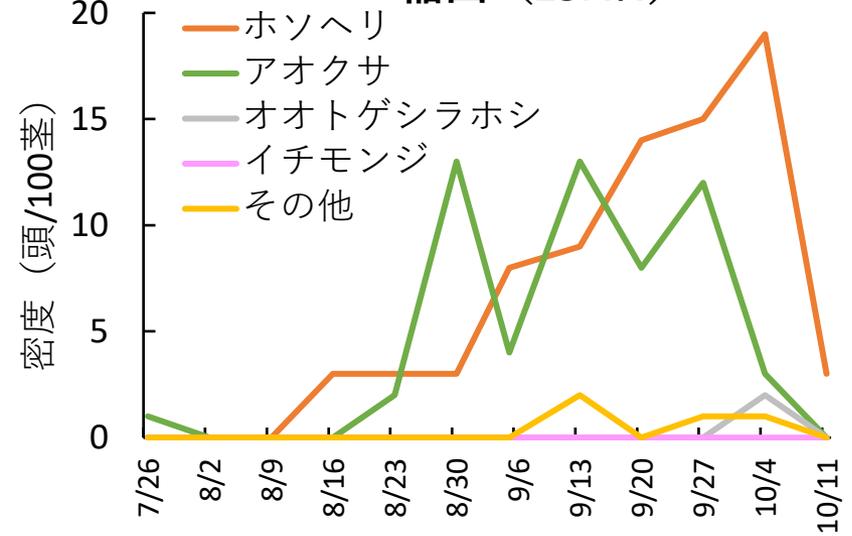


ダイズカメムシ類の発生消長(防除)と被害(新潟県、2017)

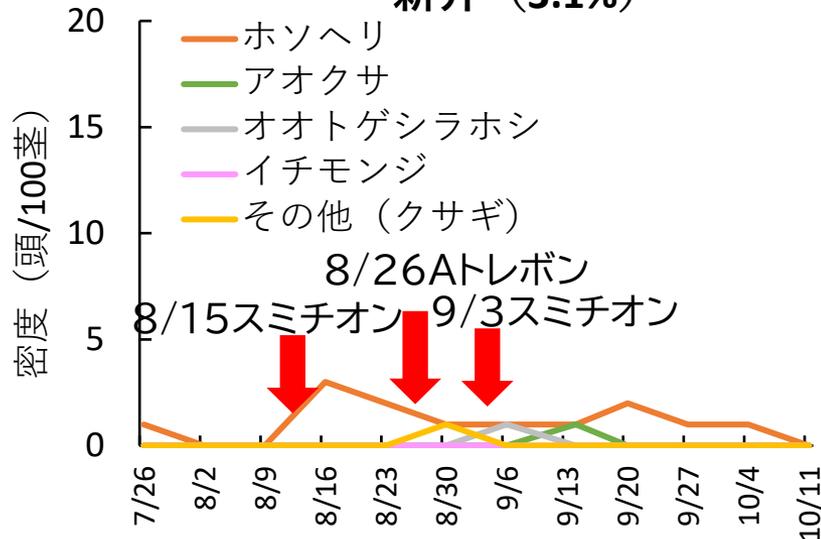
頸城 (13.3%)



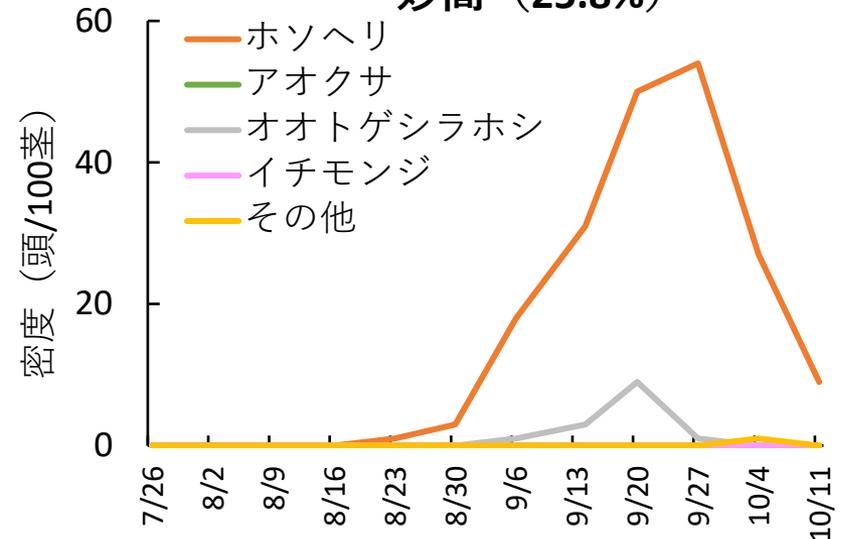
稲田 (25.4%)



新井 (3.1%)

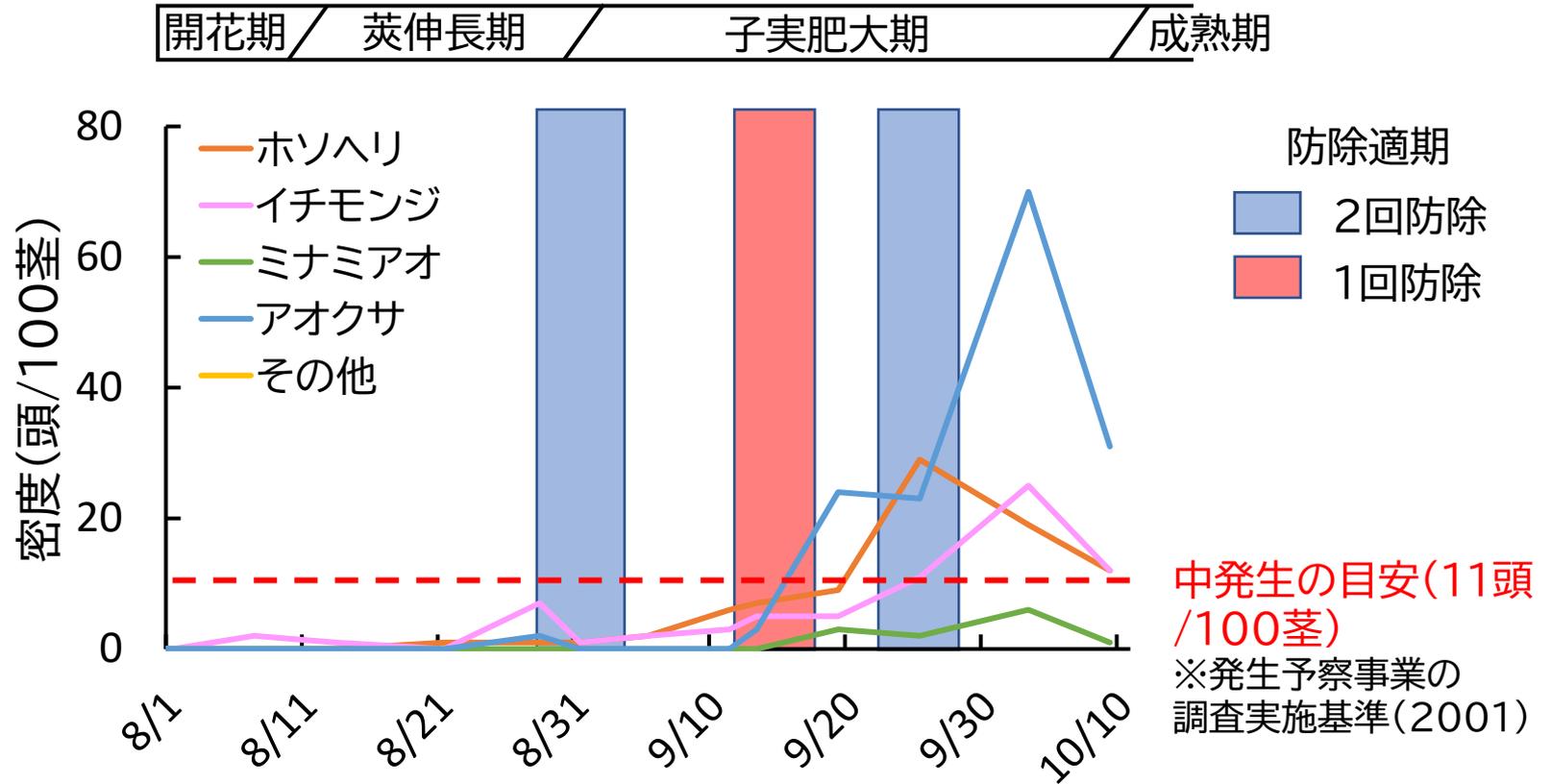


妙高 (25.8%)



ダイズカメムシ類の発生消長および防除適期(山口県山口市)

品種「サチユタカ」、6/14播種、7/29開花(2018)



まとめ

- 2024年にダイズカメムシ類が多発した要因として、暖冬で越冬量が多かったことと、夏季の高温により発生時期が早く、経過世代数が多くなったことが要因と考えられる
- 2025年の冬季の気温は中国四国地方では平年並みであることから、2024年ほどの多発生にはならないと予想される
- ミナミアオカメムシの発生量の推定に予察灯の利用が有効であることから、病害虫防除所の予察灯データや発生予察情報を防除方針を決める上での参考にする
- 近年は夏季が高温となることが多く、カメムシ類の発生にも影響があるが、同時にダイズの開花期も早まっており、これまでの栽培こよみ（例：9月上旬、下旬防除）による防除では十分な効果が得られない可能性がある → ダイズの開花期や生育ステージをよく確認して防除時期を決定する

(参考)ダイズカメムシ類対策マニュアル



目次

1. ダイズカメムシ類とは 3-
2. ダイズカメムシ類による被害 6-
3. ダイズカメムシ類の調査方法 7-
4. ダイズカメムシ類の発生予察 7-
 <誘引剤を用いた予測> 8-
 ホソハリカメムシ、イチモンジカメムシ
 <LEDトラップ (UV-LED84 球) を用いた予測> 12-
 ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ
5. ダイズカメムシ類の防除対策 17-
6. 参考文献 22-

ダイズカメムシ類対策マニュアル(HPで公表)

https://www.naro.go.jp/project/research_activities/daizukamemusi_full_3.pdf



ご静聴ありがとうございました

